

1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し (全国市中数量調査の自社所有分による)

* 上段は前期比在庫増減、中段 [] は在庫水準、下段 () は在庫水準前期比 (%) (自社所有分に限る。
点線内は全鉄連による予想数字 () 内は誤差率=予想値÷実績

令和2年5月末	令和2年8月末	令和2年11月見通し	令和3年2月見通し
-33千トン [2247千トン] (98.6%)	-107千トン [2140千トン] (95.2%)	-80千トン [2060千トン] (96.3%)	+35千トン [2095千トン] (101.7%)
2269千トン(101.0)	2225千トン(104.0)	*	*

2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

令和2年6月末	令和2年9月末	令和2年12月見通し	令和3年3月見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は 82,600 円。前年比、前期比は愛知の市況条件を変更したため比較できない。もともと低調であった需要に加え、新型コロナの影響で更に販売は悪化し、在庫は過剰気味が続いた。流通は仕入を抑えているが、5月の販売量は過去に例をみないような最も悪い結果となり、6月以降も低調な販売が続いた。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は 82,400 円。前期比-200 円。土木関連は季節的要因によりやや低調ながら堅調に推移した。中小建築案件では景気悪化による計画の中止や延期などが見受けら建築需要の減少が目立った。物流倉庫のみ堅調で、その他は全般的に低調、前年を大きく下回る商いが続いた。	土木関連は、堅調に推移しているものの建築関連では中小物件が少なく、低調な荷動きが続いている。スクラップ価格の急激な上昇に伴い、メーカーの売腰が強くなっていることから、今後、価格は強含みと予想される。在庫は低い水準だが、先が見えない状況なので、各社仕入を抑えて調整している。	土木関連は引き続き堅調を持続すると思われるが、中小建築物は年明け後も需要は見込めず低調な荷動きで推移し、在庫も低い水準を維持していくだろう。スクラップ価格上昇によりメーカーの更なる値上げも予想され、流通の利益が損なわれる懸念がある。需要の少ない中で、我々流通は与信問題に注視しながら価格転嫁を進めていかなければならない厳しい状況になるだろう。

3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

全鉄連流通動態調査結果によると10月の仕入量は173,435トン前月比+1.9%、前年同月比-6.6%、販売量は174,489トン前月比+5.1%、前年同月比-9.1%。仕入量、販売量ともに前月比増加、前年同月比減少しました。在庫量は204,917トン前月比-0.5%、前年同月比-10.9%、在庫量は前月比微減、前年同月比は著減しました。在庫率は117.4ポイントと下降しました。

相変わらず建築物の少ない状況が続いています。需要が少ない中、在庫量は低水準で継続しており、メーカー値上げの煽りを受けて、流通は採算改善に向け価格転嫁に動いている状況です。

4. 大阪の動向

(大阪) コロナ禍のなか10月は閑散、11月はスクラップ急騰による駆け込み引合いもあり、それなりの需要はあったが前年同期と比べると落ちている。

各流通ともメーカーの値上げをうけ、販売状況は厳しいが価格を押し上げていかなければならない。

10~12月に比べ、1月、2月とも稼働日数が18日と少なく在庫販売量は落ちる。中小物件が少ないため荷動きは良くないと予想される反面、先高により在庫販売は大きく減らないとも考えられる。また3月は稼働日数が23日ある事から在庫販売量は増加すると思われる。在庫は横ばい、もしくは増加していくものと思われる。